

分野：⑪産業

(通船堀の仕組みと輸送の移り変わり)

環境アドバイザー

神山裕則

対象 在家小学校4年生 (63人)

所要時間  2.5時間

場所 見沼通船堀り・鈴木家付近

実施時期 令和2年10月29日

概要

湿地を新田にかえた。
鈴木家（平田舟を見る）水神社・芝川・1の関をみる。
説明を受ける。

プログラムの
ねらい

実際の場所に行き、八丁堤を高低差を体感してもらう。
1の関では、通船堀りの仕組みを、角落し板や関の仕組みを知る。

プログラムの内容

1. 子どもたちは、ウォークラリーのように解説の問題を解きながら回ってくる。
2. 鈴木家の平田舟を実際に見学する。
3. 芝川を見る。
川の水が、潮の満ち引きに関係して、船を潮の満ち引きを利用していたことを知る。
4. 水神社を見る。ここは、昔繁華街であった。
当時は、お金を使うのはここぐらいしかなかった。
お店がたくさんあった。
5. 八丁堤の大きさを体感する。
6. 通船堀りの仕組みについて知る。
関を2つ置いて、芝川と見沼代用水の3つの高低差を閘門式を使って、解消した。



受講者の反応

もっと、小さいものと思っていた子もいて、八丁堤の大きさに驚いていた。
通船堀りの規模の大きさや、当時の簡単な道具で5か月でできたことに驚いていた。